

2023年5月ハイパーカレンダーレポート

今月の話題は誰がなんと言おうと G7 ではないだろうか。日本の議長国の下、首脳会合が広島で開催。米国、英国、フランス、ドイツ、日本、イタリア、カナダ、EU（欧州連合）に加えて、招待国として、インド、ブラジル、オーストラリア、韓国、インドネシア、ベトナム等の首脳も一部の議論に参加。何よりも国際的な注目をさらったのは、急遽対面で参加することになったウクライナのゼレンスキー大統領だった。毎年どこで開かれている G7 であるが、ウクライナ戦争が長期化する中、中国、ロシア、北朝鮮等の武力による現状変更は国際秩序への挑戦と言える。そんな中、アジアで開催されたのが被爆地の広島というのは、核抑止力に効果的で、各国の首脳プラス要人も原爆資料館を訪問したのは、大きな成果である。日本政府の努力はまさに称賛であり、新たな国際的環境が生まれるのではと考える。

さてハイパー研の5月は、4月とともに単年度事業のための整理と準備の月でもある。前年度の報告書作成や新年度事業のための入札や落札した事業の契約書の準備で事務作業が忙しい。また3月決算でもあるため、定例の評議員会に向けて事業報告書と収支決算書を纏める。実際にいろんなプロジェクトが動き出すのは6月からである。ただ今年度は、昨年度からの継続事業で、大きな随意契約の事業があった。それは、「[大分県 ICT 教育サポーター育成プラットフォーム運営業務](#)」である。3月から4月にかけてもシームレスに県下58校を毎週サポーターが訪問する事業である。電話でサポートするための GIGA ヘルプデスクは刷新して、場所や仕組みを、運営方法そのものを改善することが出来た。実際に学校訪問しているサポーターがヘルプデスクスタッフとしても参画することで、問題解決やノウハウの共有が効率化されたのである。そして、オンライン上でのリアルタイムのやり取り、Slack の存在は欠かせない。一人ひとりが学校に滞在していても、実質的にプラットフォーム全体で対応しているという感覚を覚えるのである。まさに ICT の恩恵ではないだろうか。そうした便利なツールとして、今年度も新たな試みを導入していく予定である。

最近のトピックとして、なぜにこうも一般のメディアが取り上げるのかの ChatGPT に代表される生成 AI がある。ここに来て顕著なのは、プラグインのサービスである。3月に API がリリースされたことで、その後、急激なスピードでまさに雨後の筍のように新サービスが出てきているのだ。うまいけど正確がどうか良く分からない文章作成の AI が、連携することでいろんな作業をやってくれるようになってきているのである。まさに実利的なサービスへと進化していることを英語圏の世界がリードしている。利活用の善悪や失職の心配など疑心暗鬼になっている場合ではなく、インターネット並みの変革の年になろうとしている AI 時代、使い回して使い倒す勢いで、まずは利便性を享受してもらいたいものである。

（文責：青木栄二）